



エイズについて一緒に考えよう

私たち人類がはじめてエイズを知ったのは1981年。それから20数年の間に、エイズの原因であるHIV(ヒト免疫不全ウイルス)の発見と、ウイルスの増殖を抑制する治療薬の開発など、医学面での努力が日々行われていますが、HIV感染者・エイズ患者数は世界的な規模で増え続けています。また、大阪市内でも平成19年にはHIV感染者・エイズ患者は158名が報告されており、2日に1人に近い割合でHIV感染者・エイズ患者が報告されていることとなります。また、感染者・患者の7割以上が20～30歳代の若い年代となっています。

エイズは誰もががかかるかもしれない病気です。ですから、エイズのまん延を防ぐには、私たち一人ひとりがエイズに関する正しい知識を持ち、その知識に基づいた行動をとることが大切です。このため、大阪市では、エイズに関する正しい知識の普及・啓発を中心に、エイズのまん延を防ぐために全力をあげて取り組んでいます。

大阪市内におけるHIV / エイズの相談窓口、HIV抗体検査は次のとおり実施しています。気軽にご利用ください。

〔 HIV / エイズの相談窓口 〕 保健福祉センターでのエイズ相談 電話番号は各区の局番 + 9968

| 区名 | 局番 | 区名 | 局番 | 区名 | 局番 | 区名 | 局番 |
|----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| 北 | 6313 | 港 | 6576 | 東淀川 | 4809 | 阿倍野 | 6622 |
| 都島 | 6882 | 大正 | 4394 | 東成 | 6977 | 住之江 | 6682 |
| 福島 | 6464 | 天王寺 | 6774 | 生野 | 6715 | 住吉 | 6694 |
| 此花 | 6466 | 浪速 | 6647 | 旭 | 6957 | 東住吉 | 4399 |
| 中央 | 6267 | 西淀川 | 6478 | 城東 | 6930 | 平野 | 4302 |
| 西 | 6532 | 淀川 | 6308 | 鶴見 | 6915 | 西成 | 6659 |

〔 HIV抗体検査 〕 保健福祉センターでのHIV抗体検査

時間 / 9:30～11:00、14:00～15:30

| 保健福祉センター名 | 電話番号 | 検査実施曜日 | 回数 |
|-------------|-----------|---------------|-----|
| 北区保健福祉センター | 6313-9882 | 月～金曜日の午前 | 週5回 |
| 中央区保健福祉センター | 6267-9882 | 月～金曜日の午前 | 週5回 |
| 浪速区保健福祉センター | 6647-9882 | 月、金曜日の午前 | 週2回 |
| 淀川区保健福祉センター | 6308-9882 | 月曜日の午後、火曜日の午前 | 週2回 |

その他のHIV抗体検査

木曜日夜間常設HIV抗体検査 毎週木曜日(祝日の場合は翌日、12/28～1/4を除く)
 時間 / 18:00～20:00
 場所 / 西区京町堀2-14-20
 問合 / 財団法人大阪予防医学協会 電話 6447-0431

土曜日常設HIV抗体検査 毎週土曜日(祝日、12/28～1/4を除く)
 時間 / 14:00～17:00(待ち人数によって早めに受付を終了することがあります)
 場所 / 下記
 問合 / 特定非営利活動法人「チャーム」 電話 6354-5902

金曜日夜間常設HIV抗体検査 毎週金曜日(祝日、12/26～1/3を除く)
 時間 / 17:30～19:30
 場所 / 下記
 問合 / 大阪市保健所感染症対策担当 電話 6647-0656

日曜日常設即日HIV抗体検査 毎週日曜日(12/28～1/4を除く)
 時間 / 15:00～16:00 14:30から整理券配付 場所 / 下記
 問合 / 特定非営利活動法人「HIVと人権・情報センター」
 日曜12:00～19:00 電話 6635-3332

大阪市浪速区難波中1-6-8イチエイ総合ビル3F 大阪検査相談・啓発・支援センター(choc CAST なんば)

大阪市保健所感染症対策担当



おおさか歴史探訪

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

大阪市中央公会堂の神像の復元 — 引き締まった正面ファサード —



今月は、中央公会堂玄関の大アーチ上にある神像の復元にあたってのお話です。

この像はミネルヴァとメルクリウスとい、ローマ神話にある商業と学問、平和の神様です。作者はわが国洋画壇の重鎮であった松岡壽です。この像は銅製でしたが、昭和18年に戦時中の金属供出により撤去され、失われたままになっていました。

改修工事は専門家による検討会をおこないながらすすめてきましたが、建築史の専門家から、この像は芸術家がつくった芸術作品であるから、写真や構想段階のスケッチ画などが残っているからといって推測で“復元”などはすべきではない。またこのようなデザインとしたのは、設計者が和風建築に古くからある唐破風というアーチ形の屋根に鬼瓦が載っている形態にヒントを得たものであろうが、このような手法は西洋建築のセオリーにはないものであるという理由からも復元すべきではない、との意見が出されました。

ただ、改修工事にあたってはできるだけ創建当初に戻すという基本姿勢がありましたし、この神像があるとならば受ける印象がまったく異なったものとなりますので、最終的には“復元”することとなりました。復元にあたっては、写真とスケッチ画、屋根に残された元の像の取付け痕跡などをもとにコンピュータ解析の手法でおこないました。

像を載せたことにより、正面ファサードが引き締まって見えますね。

(文:教育委員会文化財保護担当)

